

平成29年度 学校運営連絡協議会実施報告書

平成30年3月

1 組織

- (1) 都立山崎高等学校学校運営連絡協議会（全日制課程）
- (2) 事務局の構成…教務主幹教諭（教務主任兼務）＝事務局長、生活指導主幹教諭（生徒部主任兼務）、進路指導主幹教諭（進路部主任兼務）、1学年主幹教諭、2学年主幹教諭 計5名
- (3) 内部委員の構成…副校長、経営企画室長、教務主幹教諭（教務主任兼務）、生活指導主幹教諭（生徒部主任兼務）、進路指導主幹教諭（進路部主任兼務）、総務部主任教諭（総務部主任兼務）、1学年主幹教諭、2学年主幹教諭、3学年主任教諭 計9名
- (4) 協議委員の構成…青少年健全育成委員会会長、町田市教育委員会指導主事、町田消防署忠生出張所長、学識経験者（大学職員）、同窓会代表者、PTA会長、近隣中学校長、近隣小学校長 計8名

2 平成29年度学校運営連絡協議会・評価委員会の概要

学校運営連絡協議会及び評価委員会（全3回）の開催日時・出席者・内容・その他

第1回 平成29年6月23日（金）内部委員9名、協議委員6名

- ・協議委員委嘱、紹介、内部委員の紹介、学校経営計画、平成28年度学校評価報告書、昨年度の学校運営連絡協議会の課題、本校の現状と課題等説明、意見交換
- ・学校評価の基本方針の確認、昨年度の学校評価実施方法の課題、今年度の学校評価の実施に向けた検討

第2回 平成29年11月14日（火）内部委員7名、協議委員7名

- ・これまでの教育活動に関する報告、協議委員からの教育活動に対する意見、学校評価の実施目的・今年度の学校評価方針、学校評価の内容検討、協議、意見交換
- ・今年度の学校評価の観点・項目、内容の検討、実施時期の検討

第3回 平成30年2月15日（木）内部委員8名、協議委員7名

- ・これまでの教育活動に関する報告、学校評価の分析報告及び学校運営に関する意見、次年度に向けた取り組み課題の協議等
- ・アンケート集計結果の分析・考察、課題の整理、学校評価報告書の検討

3 学校運営連絡協議会による学校評価（学校評価報告）

(1) 学校評価の観点

「学校への理解」「学校の意欲」「学校の実践」の観点で実施する。

(2) アンケート調査の実施時期・対象・回答者数

12月	全校生徒	680人	回答者666人（回収率 98.0%）
12月	保護者全員	680人	回答者487人（回収率 71.6%）
12月	地域住民	230人	回答者 59人（回収率 25.7%）
12月	教職員	46人	回答者 46人（回収率 100%）

(3) 主な評価項目

学校全体、学習指導、進路指導、生活指導、特別活動、開かれた学校づくり等

(4) 評価結果の概要（学校及び校長への意見・提言内容）

ア 学習内容について

(1) 学習時間

経営計画において、生徒の学校以外で学習する時間の目標を「1日60分以上学習する生徒50%以上、考査期間中1日2時間以上90%」としている。考査期間中においても3学年とも、目標は達成されなかった。また、学校以外での学習時間0分という生徒が考査期間以外では全体で4.4%（1年生3.8%、2年生4.8%、3年生4.7%）であったが、昨年度の数値から2%減少した。アンケート実施時期が3年生の多くの生徒が進路を決定した11月であり学習しなくなる傾向にあったが今年度は1学年においては30分以上学習する生徒が約5%増加し、2,3年生においては考査前と期間中の学校以外での学習時間がそれぞれ3%伸びている。

また各学年で日常的に補習や個別指導が放課後に行われており、授業時間外に校内で学習

する生徒も一定数存在する。

(2) 読書活動の推進

経営計画において、月2冊以上本を読む生徒の目標を「生徒30%以上」としている。月に2冊以上の本を読む生徒は1年生14%、2年生14%、3年生16%で、全体では15%であった。(昨年度1年生15%、2年生22%、3年生32%、全体24%) 1冊も読まない生徒は1年生65%、2年生66%、3年生59%であった。(昨年度1年生63%、2年生54%、3年生49%) また1か月に4冊以上読む生徒は1年生5%、2年生6%、3年生は6%であった。(昨年度1年生5%、2年生10%、3年生20%)

いずれの項目も大きな減少が見られる。国語授業での味見読書や図書委員会が主催するビブリオバトル等の啓発活動により、昨年は大きく増加が見られたが今年度は一昨年度並みの数字に減少した。

(3) 授業改善

「授業満足度70%以上」の数値目標に対し1年生54%、2年生71%、3年生67%が「わかりやすい」と回答している。1年生と2、3年生の間で大きな差が見られた。

「授業を工夫していると回答した教職員は95%。授業が工夫されていると感じている生徒は1年生69%、2年生79%、3年生78%、保護者75%で2学年のみ前年度を上回り、他はいずれも前年度より減少した。

「基礎学力がついた」と回答した生徒は数値目標75%に対し1年54%、2年75%、3年72%、保護者61%であった。生徒と保護者間に差がみられた。

イ 生活指導について

「全教職員が集団生活におけるルールやマナー、規律正しい生活習慣や規範意識などを積極的に指導する」ことは重点目標の一つであり、数値目標を90%以上に設定している。結果は「指導している」とした教職員は93%。先生は十分指導している」とした生徒は1年82%、2年87%、3年82%でいずれも数値目標には届かなかった。

規則や生活指導については生徒の約91%、保護者の92%が肯定的に受け止めており、いじめ防止に取り組んでいると回答した生徒は数値目標75%に対し1年74%、2年75%、3年73%で保護者は76%あった。

自転車マナー指導については、地域在住の方の51%に評価を得ている。自転車のマナーを守っていると回答した生徒は1年93%、2年94%、3年92%と前年度(1年75%、2年59%、3年42%)に比べて大幅に向上したが、質問内容の変更(山高生は→あなたは)も影響したとみられる。

ウ 進路指導について

授業やガイダンス、補習、山崎受験道場等が進路実現に役立っていると回答した生徒は数値目標85%に対し1年58%、2年71%、3年68%であった。必要な進路情報を収集し、生徒に適宜伝えていると回答した教職員は93%、生徒の進路意識を啓発する指導をしているとしたのは100%であった。関連項目を生徒、保護者とみると、進路情報の提供やアドバイス十分であったとした生徒は数値目標86%に対し1年87%、2年83%、3年83%、保護者74%と生徒に関しては目標値まであと一歩であった。進路指導は1年から計画的に行われていると解答した生徒は数値目標85%に対し1年86%、2年84%、3年70%であった。

エ その他

学校生活は楽しく充実していると感じている生徒は1年75%、2年80%、3年82%、山高生としての誇りを持っていると回答した生徒は、平成27年度70%、平成28年度72%、平成29年度68%であった。山高に期待するものとして学習をあげている生徒は1年57人、2年53人、3年38人であった。一番多かったのは、学校行事をあげた生徒で1年118人、2年115人、3年114人であった。(複数回答可能)

(5) 評価結果の分析・考察(学校及び校長への意見・提言)

ア 「学力向上」についての組織的な取り組みの実施

すでに取り組みが開始されている朝学習や週末課題、学習習熟度に合わせた補習の実施など個に応

じた指導を学校全体で実践し学力向上を目指して頂きたい。毎日の学習時間を増やすために課題や、小テストなどを定期化させ生徒一人ひとりの学習動機を向上させる指導をしたい。

イ 「規範意識」についての組織的な取り組みの実施

山崎高校の生徒として体育祭等の伝統を踏まえた活動を通じて協働・努力の大切さなどを体得し、誇りをもてる指導を今後も粘り強く行って頂きたい。また、以前より行われている地域行事へのボランティアとしての参加や、引き続きオリンピック・パラリンピック教育や日本の伝統・文化の良さを発言する能力・態度の推進事業などを通して生徒の健全育成を図っていく。

ウ 施設の改善の実施

施設の老朽化ですぐには、全てを改善するのは難しいと思うが、段階的にでも是非実現していくことをお願いしたい。

4 学校運営連絡協議会の成果と課題（学校の自己評価へ反映）

(1) 学校運営連絡協議会を実施して得られた成果

有識者、同窓会、PTA、地域の方とそれぞれの立場からの意見をいただき、課題改善の手立てとすることができた。

(2) 学校運営連絡協議会を実施して明らかとなった課題

- ・家庭学習・読書活動が習慣化されていない状況は、中学校も同様であることからその改善にはさらなる工夫が必要であること。
- ・災害時の地域貢献のあり方等、具体的なプランの構築が急務であること。

5 学校運営連絡協議会及び学校評価を活用した教育活動の改善事項（学校経営計画へ反映）

(1) 学校運営

- ・生徒、保護者、地域、関係機関に対して、積極的に学校の教育活動を広報し理解と協力を得る。
- ・地域に対して本校の教育活動における様々な情報を発信し、地域に開かれた学校にする。

(2) 学習指導

- ・基礎学力の定着や分かりやすい授業について、教員の意識と生徒の授業の理解度・満足度に差が見られる。教科会、校内研修における授業づくりの改善や教員相互の授業見学を推進し、生徒の授業評価に対する分析を進め、教員の授業改善に努める。

(3) 特別活動

- ・体育祭や文化祭などの学校行事の達成感や部活動での充実感が生徒の自信、自己肯定感の向上へとつながるよう指導していく。
- ・地域貢献活動、ボランティア等、地域行事への積極的な参加を促し、地域に係る機会を充実させる。

(4) 生活指導

- ・学校行事やHR等あらゆる機会を通して、規範意識を高める指導を継続していく。
- ・周辺地域との連携を図るとともに、自転車乗車マナーや公共マナーの徹底を図る。

(5) 進路指導

- ・「進路指導の手引き」を改訂し、3年間を通したキャリア教育や教科「人間と社会」の体験活動（インターンシップ）を実施し社会人基礎力を養う。
- ・個人面談を定期的実施し学校や教員の進路指導情報、アドバイスを保護者にもわかるように提供、発信する。
- ・進路情報を積極的に得るための教員向けガイダンスも継続して実施する。

(6) 健康・安全

- ・スクールカウンセラーと連携したところのケアをさらに充実させる。
- ・セーフティ教室を効果的に実施し、生徒の安全・健康の意識向上を図る。
- ・美化週間を定期的に設定し、学校環境の整備と改善を図る。

6 職員会議及び企画調整会議への協議委員の参加実績及び成果

実績：両会議とも協議委員の参加なし

7 その他

- ・災害等における連携を含めて、本校と地域の方との協働に関する具体策についての協議を行う。
- ・ホームページや校門掲示板等を充実させ今後もより一層の情報発信に努める。